

事後評価結果（令和4年度）

担当課：近畿地方整備局 道路部 道路計画第一課
 担当課長名：齋藤 裕太

事業名	一般国道158号 永平寺大野道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：福井県福井市玄正島町 至：福井県大野市中津川	延長	26.4km		

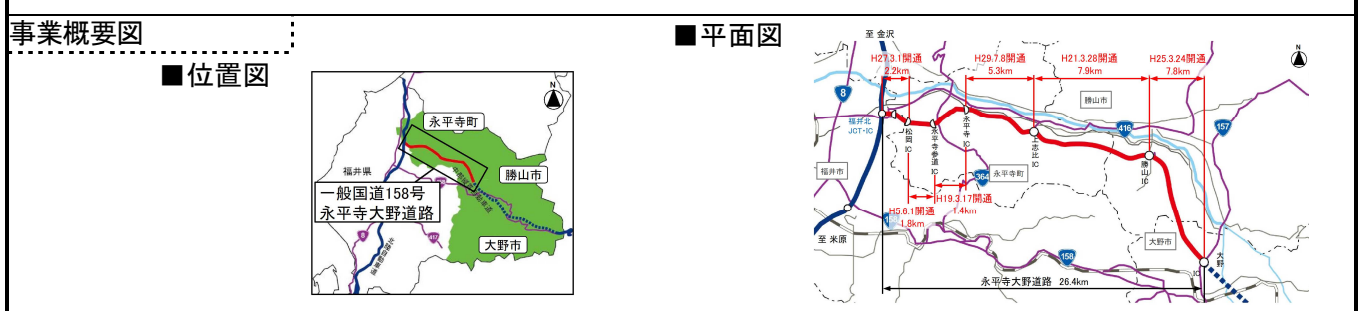
事業概要

中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に飛騨、奥越地方を通過し、福井県に至る約160kmの高規格道路（自動車専用道路）であり、中央自動車道長野線、東海北陸自動車道、北陸自動車道を相互に連絡して広域交通の円滑化を図ることを目的とする道路である。

永平寺大野道路は、中部縦貫自動車道の一部を構成し、大野市中津川から福井市玄正島町に至る26.4kmの自動車専用道路であり、高速交通ネットワークを形成するとともに、安定した交通の確保、文化・地域資源を活かした地域経済の活性化・医療活動の支援を目的とする道路である。

事業の目的・必要性

永平寺大野道路は高速交通ネットワークを形成するとともに、安定した交通の確保、文化・地域資源を活かした地域経済の活性化、医療活動の支援を目的とする道路である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H2年度	用地着手	H5年度	供用年	(当初) H29/	変動	—倍
		都市計画決定	H4年度	工事着手	H10年度	(暫定/完成)	(実績) H29/		
	事業費	計画時	(名目値) —/1,290億円	実績	(名目値) 1,306億円/—	変動	—倍		
		(暫定/完成)	(実質値) —/1,267億円	(暫定/完成)	(実質値) 1,288億円/—				
	交通量	計画時	(R12年度)	実績	(R4年度)	変動	—%		
	(当該路線)	(暫定/完成)	—/17,200台/日	(暫定/完成)	20,400台/日/—				
旅行速度向上	(供用前現道→当該路線)		28.7km/h → 53.4km/h	(供用前現道→供用後現道)		8.2件/億台キロ → 0件/億台キロ	(供用直前年次) H25-H28 (供用後年次) H30-R1		
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	総費用	1,315億円	総便益	3,604億円	基準年			
	2.7	事業費：1,205億円 維持管理費：110億円		走行時間短縮便益：3,086億円 走行経費減少便益：363億円 交通事故減少便益：155億円		平成16年			
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	総費用	7,471億円	総便益	8,823億円	基準年			
	1.2 (1.5)	事業費：6,631億円 維持管理費：718億円 更新費：123億円		走行時間短縮便益：8,202億円 走行経費減少便益：519億円 交通事故減少便益：102億円		令和4年			
事業遅延による コスト増	費用増加額		—億円	便益減少額		—億円			
事業遅延の理由									

	<p>交通量変動の理由</p> <p>—</p>
	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（費用便益分析対象区間）渋滞損失削減時間：452万人・時間/年 ・（当該区間/並行区間）並行区間等（当該区間）の渋滞損失削減率：6割削減 <p>②地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出削減量：19921.61t-CO2/年 <p>③生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等における自動車からのNO2排出削減率（排出削減量：61.08t/年、排出削減率：5割削減） ・現道等における自動車からのSPM排出削減率（排出削減量：3.55t/年、排出削減率：5割削減）
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価は実施していない。
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
<p>事業評価監視委員会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては、今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。 	
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺大野道路の整備により、沿線の高速道路アクセス性が向上。 ・沿線、周辺、福井県において人口は微減傾向であるが、世帯数や自動車保有台数は増加傾向。 	
<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺大野道路の開通により、高規格幹線道路ネットワークの形成、交通安全の確保、広域連携強化による産業の支援、災害時の代替路確保等、供用による効果の発現状況に現時点では特に問題はなく、今後も大きな変化はないと思われるため、同様の事後評価及び改善措置の必要性はないと考える。 	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺大野道路は、交通混雑の緩和や交通安全の向上に加えて、広域連携強化による産業支援や災害時の代替路の確保など、多様な整備効果が確認できたことから、こうした効果も便益として評価されることが望ましいと考える。 <p>事業評価手法の見直しについては、今後も継続して種々の整備効果の把握・検証に努めるとともに、便益の計算手法を改善する方法と貨幣換算できない価値も含めて総合的に評価する方法について検討する。</p>	
<p>特記事項</p> <p>特になし</p>	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

※ B/Cの上段の値は事業化区間を含む広域ネットワーク区間を対象とした場合、下段（ ）書きB/Cの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析の結果。